

令和8年度 西野小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：27012

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇児童・保護者アンケートの「自分の考えをはっきり話している」という項目で肯定的な回答が多く、全体の87%が「できている」「どちらかといえばできている」と回答している。授業の様々な場面で自分の考えを表出する機会を大切にできたことが子どもの「できた」という実感につながったと捉える。 ◇児童・保護者アンケートから、「自分から当番活動などに取り組む」児童が多いことが分かる。学校生活に対して前向きに取り組むことができている。	◇考えを話すことに対して成果が上がっていた一方で、札幌市の共通指標の「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」という項目は肯定的な回答がやや低いことから、考えを整理して発出する力を伸ばす必要があると捉えることができる。 ◇全国学力・学習状況調査の児童質問において、学校での自治的活動に関わる項目が全国平均と比べて昨年同様どれも低いことから、引き続き自分たちでよりよい学校生活にしたいという思いを高める関わりが必要である。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	◇札幌市の共通指標の相互承認に関連する項目において、「自分が必要とされていると感じる」といった自己肯定感に関する項目について、82%の児童に肯定的な回答が見られる。日々の授業、行事など、学校生活の様々な場面で、子どもの主体性を大切にして取組を進めることを意識して取り組んできた成果だと考える。今年度も、子どもの思いを大切にしながら活動を進め、適切に評価することで自信を付けていきたい。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力		
「やってみたい」「できるようになりたい」と自ら学びに向かう力		
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	
	自治的な活動の充実 に向けて	
	◇研究副主題『子どもが自ら学びたくなり、「～ができた」という実感がもてる授業』の実現 →子どもが自ら学びたくなる課題を生むイントロダクション（子どもの「知りたい」を軸にした課題の醸成） →深い学びを支える教師の関わり（ <u>交流の場</u> 、 <u>振り返りの場</u> 、 <u>評価の在り方</u> ）	◇学校生活をよりよくするための全委員会での取組 →すべての委員会で「健康」に関する取組の実施 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 →全校共通の google クラスルームを活用したリフレクション →リフレクションをもとにした学級会の充実
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇子どもの学びを支える効果的なICTの活用 ○自分の考え・友達の考えを「見える化」するツールとしての活用推進 ○「ICTスキル育成指標」に照らした、6年間を見据えたICTスキルの育成	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	【一人一人の教職員】	【学校全体】	次年度へ
◇本プログラム共有 ・職員会議（6月15日） ・学校教育説明会（4月17日） ・パートナー校間研修	◇日常の授業・教育活動 ◇各自の研修…札幌教研、年次研修等	◇実践交流・校内研修 ・全校研、事後討議 ◇子どもの育ちを共有 ・学年、ブロック研修、パートナー校	◇学校評価 ◇成果と課題を共有 ・研究全体会（2月）